厨二病少女物語 in,めだかボックス

箱眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
厨二病少女物語　ｉｎ，めだかボックス

【Ｎコード】
Ｎ６０７８Ｚ

【作者名】
箱眼鏡

【あらすじ】
とある厨二病少女が神に出会い（？）
スキルを貰って原作ブレイクｏｒ傍観するお話！

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。（前書き）

連載、始めました。

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。

やぁやぁやぁ！　はじめまして！　Ｍｉｓｓ．厨二こと！

『　　』ちゃんですっ☆

…え？　名前が表示されてない？

……気にすんな。気にしたら負け！ｏｋ？

で、本題に入るが…なんか私、真っ白いところにいるんだよねぇ？

うん…何でこうなったんだろう。

とりあえず、回想！

――――――

そう、それは私がとある怪しい古本屋『ＢＯＯＫ　Ｏ〇Ｆ』で…

『キツネザルでも出来る！正しい神様の呼び方（初版）』

を買った事から始まった…買う時　可哀想な人を見る目で見られたが。

でだ、家に帰ってその本を見たんだが…

――――自宅

「よし、メガネ装備完了！　熟読するぜー！」

とか言って本を読み始めたんだよ

まぁ、当然の如く『神様の正しい呼び方』があって

試にやったんだよね、手順通りに。

「えー…っとぉ？

『付属の魔方陣の描かれている蝋燭を六角形にならべ、その中心に立ち、

「いでよ！」と言ってから「くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ」を噛まずに１０回唱える』

…くっ…！　やってやろうじゃねェか！！」

で、やったんだよね。

そしたらさ…

「いでよ！

くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ

くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ
くぁｗせｄｒｆｔｇｙふじこｌｐ！！！！！！」

…出来たんだよ。出来ちゃったんだよ。すごくね？

んで、魔方陣が光ったと思ったらー、
ここに居たわけさ。

「お前が俺を呼んだんだろ？」

とか言ってる奴いるし～…

……ゑ？

そう思い、後ろを見たら

ものすごい美形な奴がいた。

畜生っ！

「誰だッッ！！！！」

「神だッッ！！！！！」

「知らんがな！！　って神！！！！？」

「そうだよ！！　１時間位前からいたよ！
お前がいつまでたっても現実逃避してるからかなり寂しかったよ！」

「知らん。どうでもいい」

「どうでも……」

ていうか神イケメンだなオイ…
まぁいいか。私の願いが先だっ！

「で？　神（笑）さんよぉ…ていうか何時まで落ち込んでんだよ。
鬱陶しいわ」

「誰のせいだ……で…本題に入るけど、お前の願いは転生だよな？
つーか此処に生きたまま来る奴って中々いねぇよ」

「オイ、ちょっと待てっ！！」

「ん？何だよ」

「今、お前…生きたままっったよな？
つー事はアレか、ここに来る奴は大抵死んでんのか？」

「……まぁ…な…？」

「今の間は何だぁ？　オイコラ神（笑）さんよ」

「さーて！　さっさとやるぞー！」

汗だらっだらやんけ…

「…まさかとは思うけどさ、その死んだ奴って…お前のミスで死んだりとかか？」

「！！」

おお、ビクッてしたっ

「…ふぅーん、へぇーえ？そっかぁ、そうなんだぁ？w」

「う、うるさい！　俺だって、俺だってミスくらいするっつーの！」

ツンデレ…？　では無いな。確実に。

「で、此処に来た奴は身元確認をしなきゃなんないから…」

「間違って死んだとかそういう事で？」

そう！　私は確信犯！

「グサッ…そうだよ…」

「自分で…」

「ゴホン、気を取り直して…名前は？ちなみに俺は菊だ」
「女子か。私は『　　』な」
神が分厚い本を見始めた。重くねぇの？
「……お、本人だな。ＯＫ　ＯＫ
で、お前の願いは転せ　「違ぇよ」　は？」
「私の願いは…　「ちょっと待てよ！」　ンだよ駄神」
「駄神…じゃなくて！　お前の願いは転生のはずだろ！？」
「情報古いな…　あんな？　私はある時、気づいたんだよ」
「何に」
「『あれっ？　転生しちゃったらいろんな世界行けなくね？』
…という事に。」
「はぁあああ？！」
「つー訳で、今の私の願いは

『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』をくれ。
」

「せこいーーーーー！！！！」

「うるせぇな！！私はあらゆる事を楽しみたいんだ！いいだろ！！」

「うううう…俺ってさ、お前に呼び出されただろ？」

「お？なんだいきなり」

「俺達には決まりがあって…

『呼び出された神は　呼び出した者の願いを絶対叶えなければいけない』

…って言うのがある…から」

「叶えてくれんのか？」

「…まぁ…でも、お前の願いって、全時空を行き来するって言う事なんだよ」

めんどくせぇ言い回ししやがって。めんどくせぇ奴だな。

「＝叶えられるかなぁ…　みたいな事か」

「うん…という事で、ちょっと大神様に相談してくるわ」

「…何か納得いかねーけど…いいよ」

「おう、ちょっと待っててくr…　『その必要はない』　！！」

「んぁ？」

誰だy…　美人さんキター…　何で神って美形多いの？
そんなこと思ってると、神（美人）さんが口を開いた

『――――――菊、テメェ何モタモタしてやがる。おぉ？』

「口悪っ！！」

ビックリだよ！！　何！？めっちゃ口悪い神さんキタ！！
口悪過ぎて突っ込んじゃったよ！！もう！

「す、すみません……」

「めっちゃビビってんじゃん、チキンハートだなーお前」

「う、うるせぇっ」

『オイゴラ、テメェアタシの話聞いてたか？　ん？』

「聞いてましたごめんなさい」

「弱いなお前…」

『！　お前がこの阿呆を呼び出した人間か』

「そうッス」

『ほぉーん…お前の願いはー…何だっけ？
あらゆる世界に行けるスキル…と、スキルを作るスキル…だったか？』

「え、何で知ってるんですか？！」

駄神ことお菊ちゃん（笑）が喋りだす。

『お菊ちゃん（笑）…　テメェが持ってったのはコレの一個前のだ（笑）』

「お菊ちゃん！？」

「お菊ちゃん、案外ドジっ子なんだな（笑）」

『で、お前』

「へぁはい！？」

いきなり呼ばれて変な返事しちゃったよ…

『お前の願い、叶えるからな』

一瞬の沈黙。　そして…

「「…はあっ！！？」」

叫んだ。

だってビックリしちゃったんだもんっ☆

『ん？　なんだ嫌なのか？』

「物凄く嬉し過ぎて吐きそうです」

『ははは！　そうか！』

「ちょっと！！　大神様！？　いいんですか！？」

『いいっつってんだろ？　お菊ちゃん（笑）』

「そうだよ。お菊ちゃん（笑）」

「う～…もういいや…ハハッ…」

お菊ちゃん（笑）が落ち込み始めた。邪魔くせぇな。

「つーか、マジでいいんスか？」

『いいんだよ別に。お前気に入ったし』

「よっしゃあああああああああああああああっ！！」

『落ち着け！？』

「うぁっ、スンマセン…つい」

『いや、いいんだがな…
で、『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』はもう使えるからな』

「「いつの間に！？」」

あ、お菊ちゃん復活した。はえぇな…神クオリティーかこの野郎

『企業秘密だ。　…お、もうそろそろ時間だ。』

「あ、本当ですね」

「？　時間が何だよ」

『ん？　お前を下に戻す時間』

「あ」

そーいや忘れてたな…

『会うのは最後になるかもしれないから、アタシの名前を教えておく。
アタシの名前は紀樹だ』

「紀樹さん…ｏｋッス！　覚えました」

『お菊ちゃーん？　テメェはいいのかー？』

「あんまし言う事ないですし…」

「ンだよ冷たいなー、お菊ちゃん」

「お菊ちゃんはやめてくれっ！！」

「嫌でーす（笑）」

『じゃ、戻すぞー』

「ご愁傷様…」

「は？」

何？　ご愁傷様？

『えいっ★』

パカッ

「あ　ぇ？　パカッ…てうおおおおおおおおっ！！？」

…その音がした瞬間、下にデケェ穴が開いた。

『んじゃな～～～♪』

「じゃあなー！　死ぬなよー！」

「死ぬ確率あんのこれえええええええぇぇぇぇぇ……」

そして、私の意識は無くなった。

――――――――――――

「…ん゛ー…？」

…知ってる天井だ…　当たり前か

「あんの野郎共…落としやがって…」

私は根に持つタイプなんだぞこの野郎。

ヒラ…

「あん？　ンだこれ…」

…手紙か…？　つか上から落ちて来たよな…

…上、天井…うわぁ、物凄い無理矢理…

「えぇー…と、何々…
『おはや〇ほー！』
うた〇リか。地味にネタ使ってくるんじゃねぇよ駄神共が。
『ういーっす！　生きてるかー？』
生きてるわ！！　もう突っ込むのやめとこう。先に進まねぇ
『ははは、言い忘れてた事があったから手紙で教えるぞ。
まず、スキルの事。
スキルは現実では使えないからな。
あらゆる世界に行けるスキルの名前は
《ブックワールド》っつー奴に決定したから。
ブックワールドはその世界に行く時に
「ブックワールド！」って言えば行けるから
でもう一つの方は《スキルメーカー》。まんまだな（笑）
あと、原作はぶち壊しても、傍観でも何でもいい。
そっちの世界の漫画にゃ影響しないから。
他になんかあったっけ…？　無理だ思い出せない。

まぁこれでいいか。

p．s．おまけもやったからなー

以上。　　ｆｒｏｍ，紀樹　』

……ぐっだぐだだな！！！」

ぐだぐだ…ぐだぐだ過ぎだよ！？

馬鹿じゃねぇの！？　他になんかあったけ…？　て！！

あきらめんなよ！！！もう！！

おまけってなんだ！！！？

「まぁいいや」

どこの世界に行くかはもう決まってんだよねー

やっぱ最初は

「めだかボックスだろ！！うあああ鴎くん可愛い可愛い…！！

という事で！レッツ！！ブックワールド！！」

――――そして私の原作ブレイクが始まった。

原作傍観するかもしれないけどね。

ぷろろーぐ　厨二少女、呼び出す。（後書き）

はい、無理矢理です。
詰め込みすぎました。切り方が分かりません。
アドバイスください…

頑張って連載します。それでは　ｂｙ，箱眼鏡

厨二主人公設定だッ！！

現実

名前：不明

性別：女

年齢：１３

身長：１６２．８ｃｍ

体重：ご「言わせるかっ！！」＜ｐ＜

一人称：（基本）私　（たまに）あたし、俺、僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：普通な黒髪黒目

ｉｎ，めだかボックス（容姿はスキルで変えている）

――原作開始時――

名前：河那（カワナ）　九十九（ツクモ）

性別：女

年齢：黒神めだかと同い年

身長：１６５．５ｃｍ

体重：不明

一人称：（基本）私　（たまに）あたし、俺、僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：肩くらいのショートカットで天パ
　カチューシャ，黒をいつもつけている

おまけ：あらゆる事にたいしての才能

神さん設定…

名前：菊（お菊ちゃん）

性別：男

年齢：不明

身長：１６９．５ｃｍ

体重：不明

一人称：俺

誕生日：４／４

性格：「さあ？　しらｎ「チキンだ」違う！！」

容姿：美形，九十九さん曰く、可愛くもあり格好良くもある

名前：紀樹（キジュ）

性別：女

年齢：不明

身長：１７５．８ｃｍ

体重：不明

一人称：アタシ

誕生日：１２／２５

性格：適当

容姿：九十九さん曰く綺麗

以上！

厨二主人公設定だッ！！（後書き）

設定です。

容姿はご想像におまかせっ！！

…しまーす。

第一厨　「あれっ？　何コレどうなってんの？」（前書き）

即興で

「駄文です！　ふはw」

では

「どーぞーw」

さっきから台詞ばっか盗んないでくれる？

後、被せるのやm「どーぞー！！」

第一厨　「あれっ？　何コレどうなってんの？」

やぁお久しぶり！

今ね、凄いテンパってんだっ！

さっき私、『ぶっくわーるど！』　って来たじゃない？

それで何故か

俗に母親と呼ぶべき人のお腹から出て（生まれ？）きちゃった☆

ビックリだよね！　で私が更にテンパる事があるんだ！

何かね、私

赤ちゃんになっちゃった☆

こんな事になるとか聞いてないよ！？　お菊ちゃん！
ていうかもう誰でもいいからこうなっちゃった理由を教えて！！！
もうホント誰でもいいから教えてーーーーーー！！！

――――――

おはや〇ほー！　３歳になった九十九ちゃんだよぉー☆
…ヱ？　時間飛んだ？　当たり前だろ！？
あんなの見て何が楽しい！？
失礼、ちょっと感情が高ぶった。
で、ふと思ったんだけど

『こういう事のなくなるスキル作ったらよくね？』

って、思ったんだ。　ホントだよ？

…まぁ、スキルメーカーの存在を忘れてたけど。

あ、一応言っておくけど、スキルもう作ったよ？　いやまじで。

なぁーんて事を考えてたら、おかーさんが

「九十九ちゃ～ん！　入園式にいくわよ～」

幼稚園、行けってさ！　個人的に幼稚園は黒歴史量産所だと思う！！

「つ・く・も・ちゃ～ん！　早くおいで～」

畜生！　行かないわけにもいかないから行くよもう！

行けばいいんでしょ！　行けばあああ！（ヤケクソ）

「九十九ちゃ～ん！」

「はあーーーい！」

畜生…行きたくねぇなー…

とか考えながら靴を履いてたら

「あら～、九十九ちゃん、もう一人でくっく（クッ）履けるのねぇ～」

履けるわ！！　普通履けるだろ！？

「じゃあ、行きましょうか～」

「うん」

心の中でツッコミながら歩いていた

まじ天然乙…

「ついたわよ～」

「はやぁ！！？」

もう着いたの！？　早くね！？

って、ヤベッ…

「どうしたの～？　九十九ちゃん」

「う、ううん！　ナンデモナイヨ！！？」

馬鹿！！　何故そこで焦る！！

「あら～そうなの～」

ナイス！！　天然ナイス！！　初めてこの人に感謝した！！

『入園式が始まります、親御さんは――――――』

「！　始まるみたいね～　行きましょうか～」

――――――

『これにて、〇〇幼稚園第３５回入園式を終わります――――』

「やっと…　終わった…」

次はぁーっとぉー…？

「クラス見に行くわよ～♪」

クラスかッッ！！！　めんどくさッ！！
…まぁ、行くか…

――――ひよこ組

ひよこて！！
0歳位はあれか！　たまごか！？

「どんな子が居るのかしらね～？」

「優しい子だといいなぁ…」

私、人見知り激しいのよ…　まじで…

「失礼します～」

相変わらずのおっとりした口調でそう言い、
私とおかーさんが教室に入ったら

「あら？　川那さん！」

美人な親御さんがおかーさんに話しかけてきた

……誰っすか？

「あら〜！　不知火（シラヌイ）さ〜ん！」

…え？

しらぬいですと！？

第一厨　「あれっ？　何コレどうなってんの？」（後書き）

短かったですねー
不知火さん気になりますね

「気になるどころじゃねぇだろ！？」

あ、九十九さん
…まだ居たんですか？

「お前が一話投稿するごとにでてきてやる！！」

どうでもいいですが、最終的にこのコーナー（あとがき）任せますよ？

「まじかよ！！？」

まじです。
では次回よこk

「次回予告！

不知火との出会い！　そして人外と殺人衝動との邂逅！

次回！

「不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかっ！！」

乞うご期待！！」

…予告通りに出来るかなぁ…

「まぁ…　ガンバ」

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

れんぞくとうこうでふ＾ｐ＾

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

や、やぁ！　唯今二度目のテンパり中！　九十九ちゃんだよっ？

うん？　え？　しらぬい？　不知火ってきゅぽきゅぽ（？）してる

…あの、不知火？

落ち着こう、自分、一回落ち着けー？

……　無　理　だ　！　！

いやだって、え？　不知火って母親いたの？

…いや、普通居るわ。お、おぉ、大丈夫かな？　私？

お、お母さん！！　と思ったら不知火母（仮）と

「九十九ちゃん大きくなったわね～」
「そうですか～？」
等と駄弁っていた。
若干呆然と立ちすくんでいたら
「あひゃひゃ！」
と、聞こえた。
…　Ａ　ｈｙａ　ｈｙａ　？
「何ぼっと突っ立てんの？　あひゃひゃ！」
「ぅおぅっ！？」
…ビックリしたー…
「？　何？　どしたの？」
「うぇっ？　あ、いや、ちょっとビックリしちゃって」
「あひゃひゃ！　なるほどね！　あたしは不知火半袖だよ！」
「あ、私は川那九十九…　よ、よろしく？」

「ぎもんぶんなんだ？」

「う゛ッ…　人見知りだしー…ねぇ？」

「！　あら〜、半袖ちゃん〜久しぶりね〜」

おかーさんが不知火（娘）に話しかけた

え？　知り合いですか？

「あひゃひゃ！　そうですね」

ガラッ

扉を開けて先生（？）が入ってきた。

長い奴が始まりそうだぁ…

「え〜、入園おめでとうございます――――――――――――――――――――――――――」

――――――――

「ではこれで終わります、明日からよろしくお願いしますね」

「「「「はーい」」」」

「はーい…」

ヤベェ…　物凄く来たくない…！！

「あひゃひゃ、明日からよろしくね☆」

「あ…うん…」

その会話を最後に、その日は別れた。

――――――帰り道――――――

「あっ」

おかーさんが何かを思い出したように小さく呟いた。

「お醤油買わなきゃ～…」

醤油かよ…

「九十九ちゃん、ちょっとスーパー寄ってもいいかしら～？」

「うん、いいよー」

「ありがとう～、九十九ちゃんはいい子ね～」

そしてスーパーへ…　と思ったんだけどさぁ…

公園が見えちゃったんだよね…

休みたい私はおかーさんに

「おかーさん、あそこの公園で休んでてもいい？」

って言っちゃった☆

まぁ、普通は駄目とか言われるけどウチは…

「あら～、いいけど～…知らない人についていったら駄目よ～？」

親が天然だから。

「分かってるよ、じゃあ待ってるから」

「はいはい～」

で、公園。

「きゃははは～」

「待て～！」

微笑ましいなぁ…

ってブランコに乗りながら子供達を微笑ましい表情で見ていたら

「おや？　一人でどうしたんだい？」

しらないおねいさんに話しかけられました。

ってか、安心院さん！！？

何故ここに…　スーパーの袋を持って…？

「どうかした？」

「あ、いえ…」

何故に？　何故にここに居るの？

「…」

「ぅ…あ、えぇっと…」

沈黙されたッ…！！

キ、キツイ…！

「…ねぇ」

「へはぃっ！？」

うわあああああああああ！！！
死にたいいいいいいい！！！！！！
何だよ『へはぃっ！？』てええええ！！

私は『どこの子？』みたいな事を聞かれるんだろうなー
とか思っていたが、
安心m…あんしんいんさんの口から出た言葉は予想外なものだった。

「君、何者？」

「…は…？」

「君が生れた事は知ってたけど、
ここまでの異常(アブノーマル)だなんて聞いて無いよ？」

何を言っているんだろうか、この人は。
確かに私はスキル持ちだが…

『ここまでの異常(アブノーマル)だなんて聞いて無い』？

誰が、私の事を、この人(じんがい)に教えた？
誰が　教えた？

…面倒臭い事になってきた…

私はそう考えながら喋り始めた…
私が作ったスキル、詐欺師(ポーカーフェイス)の仮面を発動させながら。

「…おねいさん、何を言っているんですか？

あぶのーまるって何ですか？」

…この人（じんがい）に効くといいが…

「……僕は――――「九十九ちゃ～ん！」　チッ…」

オイオイ、舌打ちしたよこの人…

「あら～、貴女は～？」

「この子、一人じゃ危ないと思ったんです。
だから少しだけ貴女が来るまで一緒に居たんですよ」

「あら～ありがとうね～？」

「いえいえ、では僕は失礼します…
バイバイ、九十九ちゃん」

「…はい」

あんしんいんさんは帰って行った。

「じゃあ帰りましょうか～」

「あ、うん…」

私は直感した。

『あの人（じんがい）は、近いうち…また現れる』

…と。

第二厨　不知火？　あんしんいんさん？　殺人衝動？　ンなモン知るかッ！！

疲れたです。

「結局、Ｍｒ．殺人衝動は出てこなかったな」

だって宗像君入れると物凄い長くなると思って…

「…まぁ、確かに」

不知火の口調が分からない…

「そこらへんが今後の課題だよな」

うん…　次回予告の気力がないから後、宜しく…

「ぉうよッ！

次回予告！

（やっと）殺人衝動との邂逅！

そして私は自分の異常さを（若干）自覚！

次回！

「殺人衝動と厨二幼女の邂逅！」

乞うご期待！　つか誰が幼女だ！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6078z/

厨二病少女物語 in,めだかボックス

2011年12月21日14時54分発行